

新型コロナウイルスの感染拡大と「絆」 (メルマガ 2020年3月号)

今日は3月11日。2011年の東日本大震災の発生から9年目を迎えました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、被災した自治体などが主催する追悼式が、多くのところで中止や規模縮小となることが報じられていました。

ご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、NHKで「東日本大震災 あの日から9年」として、あの津波の映像や、被災地の現状や教訓などを伝えていました。被災地では、今なお5万人近くの方が避難生活を余儀なくされているそうです。

NHKが被災された方約4000人を対象に行ったアンケート結果が紹介されており、2000人ほどの回答者のうち、「復興の実感」については半数を超える人が「当初思い描いていたより悪い」「復興は思ったよりも遅れている」と回答。また、「職を失った」「事業が不振である」などの理由から「震災で家庭の収入が減った」人が5割を超え、生活再建の問題が未解決であること。さらに、7割の人は、震災から時間がたち風化し、震災のことが忘れ去れていくことを感じているとのことでした。こうしたことから、今なお、復興が道半ばであり、被災された方々への支援が引き続き必要であることを改めて感じました。

東日本大震災から、自然災害の恐ろしさ、防災の在り方、そして、命の尊さ、人々のつながりの大切さなどを学びましたが、この時多く語られた言葉に「絆」があります。2011年の今年の漢字としても選ばれた「絆」ですが、この字が、人と人との結びつき、支え合いや助け合いを指すようになったのは、この震災が契機になっていると言えるかと思います。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は、「災害」とは呼ばれませんが、未知の部分が大きいだけに、その脅威は災害に匹敵すると思います。しかも、震災発生からの9年間のうちにネット社会が急速に進展したことにより、真偽定かでない様々な情報が飛び交い、かえって混乱が生じています。いわゆる「デマ」が混乱に拍車をかけている状況があり、なおさら不安な気持ちを煽っています。

ネット社会の匿名性が闇の世界を創り出しているようにも感じるのですが、こうした非常時だからこそ、あの震災当時に「絆」に込めた思いを呼び起こし、支え合い、助け合う気持ちと行動が今こそ求められていると思います。

感染者、感染対策に従事された医師や救急隊員などの方々が排斥され、嫌がらせを受けたことなども報じられていますが、非常に悲しいことですし、また、**この機に乗じたマスクの転売目的の買い占め行為**など極めて残念に思います。

「明日は我が身も」と思いつつ、互いに思いやり助け合う気持ちを大切に、みんなで協力してこの困難を乗り越えていこうではありませんか。(N.W)